



# 館報 まつかわ

松川町公民館報  
第684号  
令和2年11月15日

町の川 ②⑥ 大横沢川 (西山)



# 辰野⇄上片桐開通100周年特集 第2弾

## 【鉄道開通後の様子を地元のお年寄りに聞く】



### 鉄道開通後の様子を探る

今から40年近く前の「清泉地一部落をたずねて」の録音テープを地元の方からお借りしました。そこには8名ほどの皆様が記憶にある開通後の駅や周辺の様子が語られています。

「駅付近は大高日神社と田んぼや畑だったんだに、当時の電車は今のバスぐらいの大きさを砂利とばしや、竿の付いた言ってみりやチンチン電車のようなものだった。時々駅に止まれず暴走をすることがあってその時は線路に飛び降りたこともあった。大栢のカーブで脱線した事故は大きかったに、負傷者を⑤まで運んでそこで手当てをしたんな！昭和3年頃の花電車はそれは見事だった事を覚えておる、周りが花や人形で飾られておった。桜山のお祭りには必ず花電車を通ったなん！駅の西側は生田や大鹿から運ばれてきた木材でいっぱいだった。木材は貨車で東京方面に送られておった。旅館や料理屋もあって、大人がよく酒を飲んでいるのを子供の頃よく見たなん！」

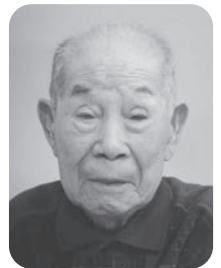
駅前には大きな犬が引く人力車が待つておって電車が着くと「ケットバシヤ、バシヤ」と言つて客を呼び込んでいた。そのうちに南信自動車が増えり合い自動車を宮本館のところで待機させてお客を待つておったなん。

飯田から東京へ行く衆も上片桐駅まで来てそこから電車に乗つていったんだに。片桐駅で降ろされた荷物を飯田方面に運ぶ運送会社が出来て荷馬車で賑やかだったに！。荷物を運ぶために、駅から諏訪形を通つて上大島の「やません」までいい道が開いたんな！駅前から諏訪形までの道を清諏町通りといつて、いくつもの店が出来て栄えてきたんだに！

当時、長が付くのは、村長・校長・駅長くらいしかおらなんだで新しい駅長がくりゃあ商店が音頭を取つて歓迎会をしたに。それに駅長にあだ名もつけてなん、駅と清泉地一の衆は心安くしておつたんな！」

駅が開いたことで駅付近が上片桐の中心として栄えておつた様子がお伺えました。

### 川瀬十蔵さん 96歳



川瀬さんのお宅は駅のそばにあり記憶にある駅の様子などをお話してくださいました。

「駅は貨物列車の引き込み線がH形状に似た形で引かれていた。今の下平歯医者どぼたもち山側、駅東側④の前面も引かれとつた。部奈から富士森（現在の藤森信号付近）の高台まで鉄索（ケーブル）



④運送の初荷の様子

で運ばれてそこから次の鉄索で上片桐駅まで運ばれてきた。駅の西側、今の小学校の下に材木置き場があった。そこから下平歯医者側の引き込み線までトロッコで運んで貨車に乗せていた。トロッコに乗せてもらつた事もあつたな！

駅前には旅館と松尾新聞屋、床屋、魚屋、饅頭屋、駄菓子屋、表具屋、銭屋肥料、カナグツ屋、畳屋、建具屋、米屋、料理屋は（ツタヤ・ナカヤ・イチリキ・カタギリヤ・フクモトヤ・ニシハラヤ）、など店の名前を言つてくれました。「諏訪形にはお医者があつた。」

当時の上片桐駅前案内看板に載っている「内科、小児科、中垣昌一」医師のことと思われる。「飯田に物を運ぶに伊那大島駅より上片桐駅の方が上片桐停車場線（県道上片桐停車場大島線）が開いておつて便利だったように、伊那大島駅が開通した後も栄えていた。」

川瀬さんは96歳ではありますが、当時の店の名前も位置を思い出しながら詳しくお話ししてくださいました。



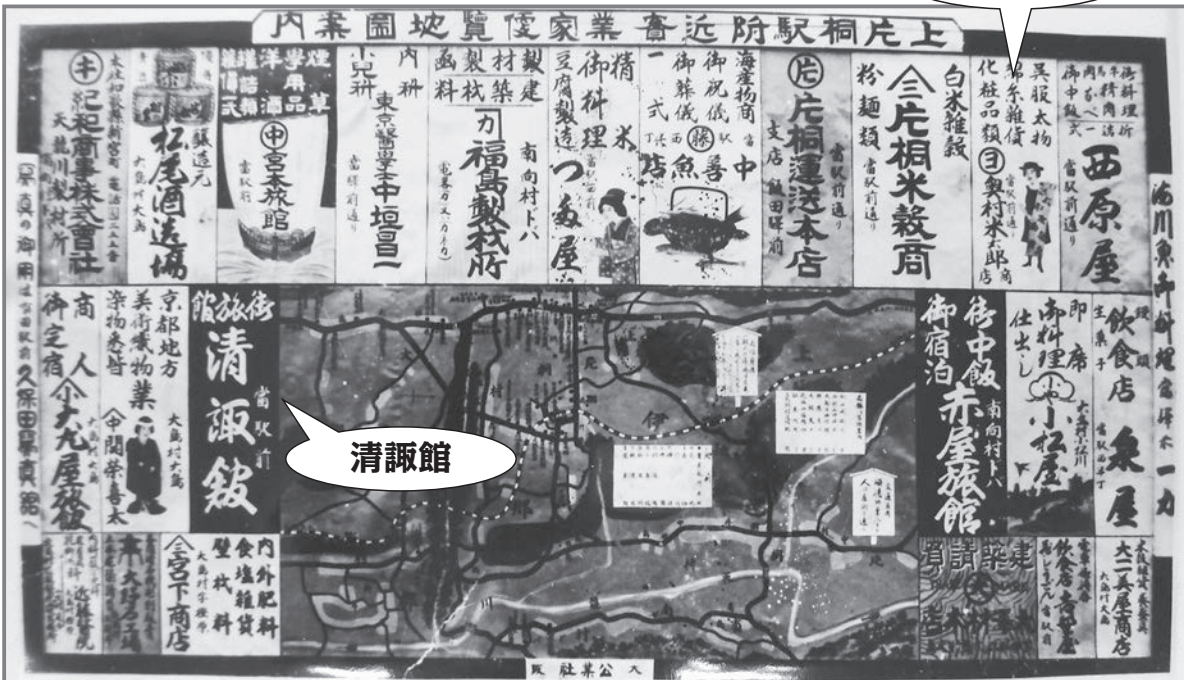
奥村周次さん 88歳

諏訪形の通称清諏通りにお住まいの方です。幼少の頃の記憶にある駅周辺の様子をお聞きしました。

「父親は元々飯田の呉服問屋へ奉公しており、その後上片桐駅付近に住所を移して呉服屋を営んだ。」  
開通当時の駅前の商店案内看板には「奥村米太郎商店」が記載されています。「清諏通りにはたくさんのお店があり、とても賑わっていた。」奥様からは「無いもの(店)が無いくらい、便利などころだったので、良いところにお嫁に来たと喜んだ。」と言われました。「大きな材木の集荷場や馬宿が多くあった。桜山のお祭りの時には、多くの方が上片桐駅で降りて桜山まで行列を作っていた。それに合わせて出店が方々からやってきたので、駅付近はお祭りのようだった。子供の頃はお駄賃をもらって桜山の祭りに行くのが大変楽しみであった。」それから戦争当時とその後についても「戦争が盛んになって、

奥村商店

物資が減り配給制になるとお店をたたむ人が増えて行った。うちの店も戦争の影響を受けて廃業した。お店をたたんでからも呉服屋だったノウハウをいかして、養蚕家と染め物屋の取次ぎなどを行っていた」  
奥様とお二人で当時の様子をお話していただきました。



清諏館

上片桐駅付近地図案内看板

この看板には駅付近地図と駅前はもとより、市田村、大島村、南向村などの近隣村の商店・食堂・旅館・製材所・医者・写真屋の名が看板に載っていました。

宮沢 進さん 91歳



駅前通りの旅館清諏館ご主人の宮沢さんに記憶にある旅館の様子をお聞きしました。

「九人兄弟の四番目で長男として生まれました。母親が子育てをしながら食堂と旅館業を始めた。上片桐には家と宮本館の2件の旅館があった。家は1階が食堂で、2階が宿として使っておった。東京や全国からお客が来て泊まり、富山の薬売りが泊まり込んで黒塗りの薬箱をしょって歩いて薬売りに出かけて行った。泊り客は電車に乗るお客よりも電車から降りたお客の方が多かった。2階では呉服屋が来て反物を並べて商売をすることもあった。上片桐駅が終点で飯田方面の荷物は運送会社の(片)運送、(上)運送が馬車で荷物を運んでおった。旅館の前の(片)運送には受付のL字のカウンターがあってその奥に大きな金庫があったに。\*\*\*、目の前が(片)運送であつたこともあり、当時の様子を詳しくお話していただきました。  
現在は清諏館さんは営業しておりませんが、玄関には「清諏館」の文字が書かれて旅館の面影が残っております。



# 町議会議員選挙 に思うこと

## ～公民館に寄せられた 町民の思い～

### これからの議員像とは

先日総理大臣も代わり、世の中は新型コロナウイルス禍で大きく変わりつつあります。この様な緊急事態に求められる議員像について考えてみました。

我町は昨春の町長選で若い宮下町長に代わりました。新町長を支える新しい力を結集する事が必要かと考えます。世の中は進みIT化しています。国でも菅首相がデジタル庁を作り一気に進めています。パソコンやスマホが使えなければ生きていけない時代がきています。これからの事を考えても議員の皆様が町長を始め役場の方と協力してリードしていかねければなりません。皆さん是非勉強し

て、町民を引っ張って行ってください。議員間はラインで連絡を取り、緊急の現場ではスマホで撮り、仲間、役場に素早く送信出来る事くらい気軽に出来るようになってください。スマホ、パソコンはほんの手始めです。一刻も早くIT化に慣れてください。立候補者の皆さんに敬意を払うとともに活躍を願っております。

(70代男性)

### この度の町議会議員選挙 にあたり期待する事

急激な少子高齢化と人口減少、農業の担い手不足、後継者の流出が進むとともに空き家化、インフラの老朽化など町の抱える課題は多種多様にわたると思います。短期的に解決すべき課題、また長期的に姿を見据えて進める課題が考えられます。

そんな中、10年以内にはリニアの開通が見込まれ、コロナ禍でIT化が目まぐるしく展開され在宅勤務などを始め働き方そのものが変わり拡大して行くことは間違いないと思います。そんな将来を考えた時、自然豊かな風景や、ゆとりあるスペース、日常生活の中での仕事、遊び、学び、休息、家族、友人、隣人関係などが恵まれたこの地を、冒頭の

負の循環から好循環へ持つていけるチャンスだと考えます。

広域連合と連携する中でこの地が生活基盤となり魅力的な暮らし場となれば、そこに暮らすことは住み手の誇りとなると考えます。

そんな中で今回この度の町議会議員選挙にあたり期待することをあげてみました。

\* 地域へ出向き、声を聴き、自分の目で見て行動に移し働く議員の姿を望みます。

\* 議員の皆様には建設的な提言と議論で政策実現に向け行政と協力して引っ張って行く姿を望みます。

\* 議員の皆様は住民に選ばれた代表者です。住人、行政間をつなぐ歯車となり、町全体が良い方向に回る事に期待をします。

終わりに町民、議会、行政が一体となり心通い合う未来志向で自分たちの町は自分たちで作るといった前向きな住民の姿に結びつくことを願うものです。

(60代男性)

### 議員に求めること

● せっかくある商店街をもっと活気のあるものにするにはどうするか、町民の意見を聞きながら考えて欲しい(世代を超えて集まりやすい場所にして欲しい)

(20代女性)

● 地区の会合などに顔を出さない議員さん多いと聞きます。地元根づき、自治会活動や公民館活動などの地域活動をちゃんとやってきた人が議員になるべきだと思います。

(30代女性)

● 少子高齢が進む町で、若い世代を呼び込み活気と魅力が溢れる町にするにはどのようなことが出来るか。議員としての立場からアイデアを出してほしい。

(20代男性)

● 議会だよりも似た内容が書いてあったが、「批判ばかりで中身の無い議会(議員)」と、多くの町民が感じています。よその方から言われる始末。批判だけなら誰でもできます。議員の皆さんの姿勢の正し方に期待します。

● 町民のためになり、公平性・必要性のある税金の使い道を町と一緒に考えて欲しいです。

● 行政を監視する役割は当然だが、一緒に町をつくっていく立場も強めてほしい。

● 行政のダメなところは指摘するが、議会としての改善策が見えてこない。議員の中でも意見が分かれているものがあり、議会としての立場をまとめるべきだ。政策や事業にスピード感がないのは町だけの責任ではない。

(40代男性)

● 宮下町長が深津町政の後始末をさせられているように感じる。押しつけるだけでなく、宮下町長が本来やりたい施策を押し進められるような協力も必要だ。選挙時の公約を進めてほしくても、前々からあった問題ばかり審議していて、他の政策が前に進んでいない。議会に邪魔されているような憤りすら感じる。

(30代男性)

● 全戸に意見書を配布する力のあるグループがいるが、その意見書の意見ばかりにとらわれている。もちろんそのことも大事だが、そのグループだけが町民ではない。もっとおらかな心をもってほしい。

(30代女性)

● 1日500台といわれるリニア工事残土運搬車両のために、松川インターに直結する道路が必要と思われませんがどうお考えになるか。

(50代男性)



松川北小学校

俳句を作ろう

きんちようで

顔が真っ赤な

さんかん日

光澤 陽輝

ピストルの

音もへつちやら

四年生

上條 八重

短歌を作ろう

仮装して

みんなにお菓子

もらいつつ

みんなでニコニコ

帰路は明るい

時津 昊明

紅葉で

赤や緑に

色づいて

イチヨウヤカエデ

秋の山々

木下 佳呼



りんごがり

赤い煙は

おまつりで

きれいに実って

まんぶくだ

大澤ひまり

かぞつをし

トリックオアトリート

ひびくこえ

えがおあふれる

子どものすがた

宮澤 碧衣

ハロウィンだ

かぞつする日だ

おかしくれ

暗い夜だよ

おぼけ来る日だ

米山 裕都

松川町今昔

資料館だより

◆第51回◆

「松川町と満洲移民」

(その3)

前回紹介したように現在の松川町の旧村から満洲へ移民をした人数は、他村より多くありません。現在残っている大島村役場・生田村役場の公文書の中では、残っている移民関係の書類はわずかです。大島村の書類の中では、移民をした32軒のうち、4軒ほどは載っています。その中のひとりについては、満洲へ行くまでの過程が、いろいろな書類によりわかります。

昭和11年(1936)6月、

第5次満洲農業移民の募集が始まりました。大島村長から村民に募集をしたところ、正式の申込者は一人もありませんでした。ひとり25歳の若者が希望していましたが、周囲の人たちが反対していたの

自昭和十一年

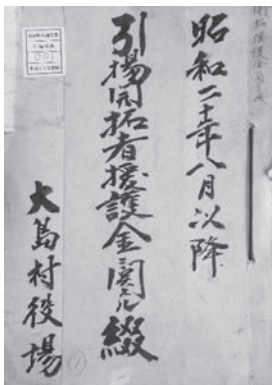
満洲信濃村建設一件

大島村役場

で、村では勧誘を進めていました。兄夫婦の下で働いている独身者でした。一か月ほどして、説得できたようです。8月になって参加者の集りが上飯田役場であり、大島村では参加するように勧めていました。その後8月下旬になって、本人より移民する前の現地訓練に参加したので認めてほしいと願いが出て、9月初めに長野県学務部社会課から、仮採用が認められました。11月に御牧ヶ原修練農場での訓練に参加しました。本人から大島村役場への御礼の手紙が来ていて残っています。そして12月には正式採用が認められ、昭和12年2月には、満洲へ出かけています。

島村役場で行われました。村長の呼びかけで、村内のいろいろな立場の人たちが参列しました。そして10月になり二人は満洲へ出発することになり、役場では村内のいろいろな立場の人に、見送りを依頼しました。この二人の満洲での過ごし方についての書類は役場にはありません。後の書類によると、男の子3人がいたことがわかります。

それから一年半ほどたった昭和13年8月、満洲信濃村移民団長から大島村長宛に文書が届きました。それを見ると、「団員家族招致二関スル件」という文書で、移民する時独身であった若者が、結婚するため帰国するので、本人及び妻になる人に関係した書類を作成して提出してほしいということが書かれています。この若者の妻になった人は、大島村の近くの村の人でした。結婚式は9月30日に大



そして戦後の満洲からの引揚者が記載されている綴の中に、大島村長がこの若者をはじめ引揚開拓者に援助金を交付するよう申請しています。申請書の中に家族のことが書かれていて、この若者の妻と3人の子供は、生死・行き先不明と書かれており、帰国できなかつたことがわかりました。

松川町資料館

伊坪 達郎

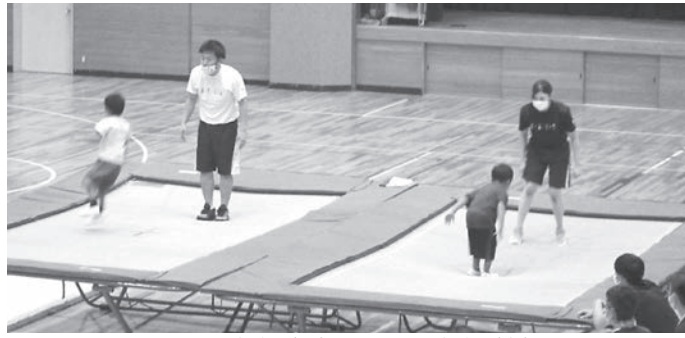


# スポーツ

本館体育部主催

## 笑顔弾けるトランポリン教室

中央公民館体育部では、本格的なトランポリンを使ったトランポリン教室を毎年町民体育館で開催しています。



だいで先生(左)とあんな先生(右)

今年(今年)は9月11日と18日に、飯田市アクシス体操教室から体操教室の代表を務めるだいで先生と、指導員で現役体操選手のあんな先生を迎えて行いました。主に子ども達を対象としており、今年(今年)は両日も30名ほどが参加しました。大きなトランポリンを使

い、体をピンと伸ばした大きなジャンプや、膝タッチジャンプを体験してみるととても楽しく、1日だけの参加でなく2日間とも参加した皆さんも大勢いました。お尻でジャンプ、膝つきジャンプ、一回転ジャンプなど様々なジャンプに取り組みました。先生たちと一緒に元氣よく、楽しくジャンプをして子供たちのたくさん笑顔を見ることが出来ました!



最後はだいで先生と、あんな先生がデモンストレーションを行ってくれ、普段はテレ

ビでしか見る事ができない迫力ある演技を見ることができました。トランポリン終了後、公民館長から子ども達一人一人へ終了証が渡され、みんな嬉しそうに手にしていました。



はじめはちょっと怖いけど...

普段なかなか触れることのできない大きなトランポリンを使って、沢山のジャンプができてとても良い体験になったと思います。皆さんも機会があれば是非参加してみてください。

本館体育部 高坂秀太郎

### 男と女いきいき講座

### 情報

次のまつかわ大学は **12月5日(土)**

## あきらめない心

～前向きに生きることで必ず道は開ける～



いとう まなみ  
**伊藤 真波**  
元 パラリンピック  
水泳日本代表

令和3年  
**1月30日(土)**

◆開演/13:30  
◆松川町中央公民館  
えみりあ



詳細は中央公民館へお問い合わせください

なまなま今

古希ソフトボールクラブ

古希70歳ということでの年70歳になるのが条件というとてもお元気な方がつどうのが「古希ソフトボールクラブ」、代表の松尾憲夫さんにお話を伺いました。

古希ソフトボールクラブはスポーツでの交流を目的として現在18人が所属していて最年長の方は82歳だそうです。そのほかに飯伊の大会などの際にサポートをしてくれる準会員が6人いらっしゃるそうです。

活動としては町のシニアリーグに参加していて、リーグは5チームで構成され、年間で総当たり戦を2回行って順位を争っているそうです。

また年2回春と秋に飯伊地区の大会が開催され各市町村のチームと対戦し、過去何度も優勝、準優勝していて他のチームからライバル視されているそうです。

今年には新型コロナウイルスの影響でシニアリーグは中止、飯伊も昨年の秋の大会の雨天中止に続き

春の大会も新型コロナウイルスで中止となってしまう、1年間のプランクを越えてようやく11月15日に開催される秋の大会にける意気込みは大きいそうです。

来年の抱負をお聞きしたところ、「チームの存続を第一に考えていきたい」とお答えいただきました。昔は2チーム作れるほどメンバーがいたのですが体調面の問題やソフトボールの競技人口の減少などで会員の確保に苦労しているそうです。

お元気でいつまでもソフトボールを楽しんでいただきたいです。

すぼっと

上大島地区公民館 かぼちやランタン作り

上大島地区公民館と育成会の共催で、ハロウィンに合わせかぼちやランタン作りが行われました。

地区公民館の講堂で換気を行いながら、公民館職員と育成会の20名ほどで作業が行われました。

1時間程度の作業で個性豊かな作品多数が生まれ、中には揺らぐLEDランプが内蔵された物も。



今年は長雨の影響により、かぼちやが不作ということ、材料のかぼちややネット通販で購入されたそうです。(なかなか良いお値段だったそう)

今年にはコロナの影響で思うように公民館事業が出来ない中で、「区民の方と繋がれるイベントをやるう！」という思いから計画されました。展示は1週間行われ、上



展示された手作りランタン



松川中央小学校

季節の俳句 秋

あきのみち 木からもみじが ばらばらと 遠山 莉暖

あかとんぼ びゅんびゅんとんで あそんでる 中平 悠斗

じゅうがつの ハロウィンおかしが いっぱいだ 木下 華恋

赤い月 袋にほおずき すきとおる 宮嶋 海

サンマ焼き 油の音が おいしごと 西尾 優希

俳句

片栗の花 西澤 清子 (中荒町)

山間の桜かくしや薄日和

濡れそぼつ旧街道の梅雨最中

片栗の花妖精の目覚むごと

秋暑し棚田に小さき耕運機

城跡を風の素通り秋閑ける





声

まつかわ大学

佐久間レイさん

「心のストレッチ」を聞き



バタコさん役で有名な佐久間さん

完璧ではなく弱い部分もある、心の中にある汚い心も個性なんだ。アンパンマンに登場するキャラクターの様に今自分のできるところを折れないように

「そこからおばあさんと母親の会話が始まります。おばあさんから「あれこれ試して泣き止んでくれる経験を積むと、だんだん少しずつ理由がなんとなくわかってくるものよ」、「赤ちゃんはママとは別、一人の人間、考えていることがわからなくて当然なのね」と、おばあさんの長年の経験から得た教訓と、懸命に子育てをしている新米お母さんの会話が続きます。BGMのせて、佐久間さんが3役

を演じ、目を閉じて聞いていると電車の中の光景が浮かび目頭が熱くなる自分がいました。佐久間さんは「子どもはへその緒を切るとママと離れることになる。でも見えないへその緒はその子が自立するまですーっと繋がっていて、それはママだけでなくパパやお兄ちゃん、お姉ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん、さらに地域の人までみーんな繋がっている。その見えないへその緒からこころの栄養をもらい、やがて絆になる」と朗読の終わりに話されました。何か大事なものを教わった気がしました。

8月22日にまつかわ大学「佐久間レイ」さんの講演に参加した。コロナ禍の為、受付から感染予防対策が取られ、実行委員会の皆さんはフェイスシールド、マスク姿で私たちを迎えてくれた。「それいけ！アンパンマン」のバタコさんや「魔女の宅急便」の黒猫ジジなどの声優をされている方で、歌手、脚本家としても活躍されている素敵なシングルマザーだ。前半はご自身の経験をもとにしたお話を聞いた。「自分の汚い心を隠し生きることが当たり前として生きて疲れて体調不良を起こした時期があった。そんな中アンパンマンの作者のやなせ先生と出会い、声優を通じてヒーローだった

しなやかに生きる事を教えて頂いた。「人生は喜ばせごっこ」「一寸先は闇ではなく光だ」など、やなせ先生から数々教わった事を佐久間さん自身に置き換えた話をしてくれて、大変共感する自分が出来た。後半は佐久間さん脚本の朗読「見えないへその緒」を聞いた。登場人物は3人。電車の中で幼い娘を連れだしたおばあさん。幼い子が泣き出した、母親は一生懸命泣き止ませようとしていたが母親は泣いている理由がわからない。居合わせたおばあさんが「子どもが泣いている理由なんてわからなくて当たり前、それぞれの個性のある人間なんだか



1人3役で自作を朗読

もあり心が折れそうなの中で、この講演は私の心が和むひと時となった。コロナ感染症予防で今までの違い行動制限の中ですが「一寸先は闇ではなく光」となることを信じながらえみりあを後にした。(一参加者より)

季節草

季節はすっかり秋ですね。夏の厳しい暑さから解放されて好きな季節の訪れです。涼しいだけでなく、秋の旬な食べ物がいしくて、紅葉がきれいで、好きなものが盛りだくさんの季節です。

秋の味覚、みなさんはどんな食べ物が好きですか？ 葡萄や梨の果物に、きのこやさつま芋、これまた好きなものばかりで、一番を決めることができませぬ。季節の旬な食べ物を味わうことができ、幸せでいっぱいです。

秋といえば紅葉が外せませぬ。昨年は、成人式を機に再会した友人と紅葉を見にドライブに出かけました。南信地域は松川町を含め、紅葉がきれいなスポットがたくさんありますよね。紅葉を見ながらゆったり散歩するのが、気持ちいいですね。これからますます寒くなり、季節は冬へと変わりますね。暖かくして過ごし、体調管理には気を付けたいですね。(関島幸祐)

公民館報 「まつかわ」 第 684 号 令和2年11月15日 発行所 松川町公民館 責任者 山崎 隆 編集人 公民館編集部 Tel 36-2622 e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp 飯田市上郷黒田121 印刷所 龍共印刷株式会社 再生紙を使用しています。